

平成21年度
学校だより
11月号



丘の子ども

大阪市立晴明丘小学校

阿倍野区晴明通10-34

(06)6661-8526

なかよく 正しく たくましく

なにわ伝統野菜から地域の歴史に

大阪府立農林技術センターが昭和61年に実施した遺伝資源調査では、府内で栽培されている野菜は20種類、51品種。大阪市内では毛馬キュウリ、天王寺カブラ、勝間ナンキン、田辺ダイコンが有名だったが、昭和10年代ではほとんど栽培されなくなった。センターによると、

- ①害虫に弱いこと。
- ②大阪市内の都市化
- ③季節限定栽培から、年中栽培できる野菜の栽培
- ④食習慣の変化による漬物消費量減少

などのために作付面積が減少したり栽培されなくなったりした品種が多いという。

皆さんは、長野県の野沢菜が天王寺蕪の種を植えたことに端を発していることをご存知でしょうか。野沢菜は、江戸時代野沢温泉村の僧侶が京都から四天王寺に立ち寄ったときに種を買って帰り、野沢温泉の寺の畑に播いたという。気候の違いから蕪は小さく、葉っぱの漬物にしたのが野沢菜です。

そんな話を「わては天王寺蕪でっせ」という絵本にしたのが、志村敏子さんです。志村さんは晴明丘小学校の校区にお住まいで、大阪市内の小学校教諭を退職後、現在も講師をされています。4年前にこの本を出版され、今回教え子が絵も新たに書き換え、再版されました。縁あって、先日の低学年

の部のお話会にも来ていただき、絵本を紙芝居にして3年生に語っていただきました。

その際、天王寺カブラや田辺ダイコン、野沢菜を持ってきて子どもたちに見せていただきました。また、再版された「わては天王寺蕪でっせ」の絵本を10冊寄贈していただきました。志村敏子さんは、現在「あべの村むかし話」という阿倍野区の歴史の絵本も出版計画中ということす。

自然観察学習園では、園芸クラブの方がなにわ伝統野菜を栽培されていますし、飼育栽培委員会の子どもたちも栽培しています。

高学年のお話し会では、天王寺蕪の会事務局局長であり本校元PTA実行委員の難波りんごさんに「阿倍野区の歴史」を6年生に語っていただきました。6000年前の大阪、200年前のあべの村のようす、天下茶屋遊園地、馬車鉄道などの話に聞き入っていました。

校区や地域の歴史を知ることにより、よりわが故郷が身近になり、愛着もわきます。今後も、地域の移り変わり、そこに住む人たちの生きる姿を子どもたち自身が調べ、掘り起こし「地域愛」を育む子ども達になってほしいものです。

(学校長：黒澤義夫)

